

VMwareと日立

仮想環境でも、統合管理製品は頼れる存在です

企業のクラウド利用が本格化するなか、ユーザーは IT インフラを構成する多様な製品の中から、ニーズに合うものを組み合わせ上手に活用する時代になっています。VMware と日立は、サーバ・ストレージ基盤部分の管理負担を大幅に軽減する製品のほか、「業務の視点で一括管理」することでスムーズな企業活動を支援する製品をご提供しています。

ユーザー企業
のミッション

- ・ビジネスを柔軟に拡大していけるように、クラウドや仮想化技術を積極的に活用せよ。
- ・運用・管理部門は、業務が止まらないように努めるとともに、運用・管理の効率化をめざせ。

業務視点の監視で障害を早期発見

仮想環境を多様な角度から監視

VMware vSphere® のご利用で、基盤部分、つまりサーバとそこにつながるストレージのリソース情報の一括管理が可能。どこに負荷が集中しているかの分析も容易です。さらに JP1 のご利用で、基盤の先にある業務システムにまで管理の範囲を拡大できます。動きがおかしいと最初に気づくのは業務を行っているユーザーです。ユーザーと同じ「業務の目線」で異常を捉え、情報を共有することは、障害を早期に解決し、システムの健全性を保つために大切なことです。

仮想環境で徐々に崩れてきたリソース配分
チューニング機能でかんたんに
再適正化

従来、システム構成は最初に決めたらそうそう変わることはありませんでした。しかし仮想環境では、柔軟に仮想マシンを増減できることから、使ううちにサーバやストレージのリソース配分のバランスが崩れ、それがサーバ遅延の原因になることがあります。Hitachi Command Suite のチューニング機能は、VMware vRealize Operations と連携してストレージの特定プロセッサに負荷が偏っているなどのアンバランスを分析可能。シミュレーションで簡単に適正なリソース配分を再計算できます。

依頼が多くて手間のかかる
仮想マシン追加

自動化して効率アップ

組織や人の入れ替えがあると、ふいに依頼がくる仮想マシンの追加。ストレージで準備して、その後サーバでも準備すると、負担の大きな作業です。JP1 をご利用いただくと、ストレージ側の LU 作成も、サーバ側のデータストア作成も、一連の操作を定義し、ボタン 1 つで実行可能。必要に応じて人の判断が必要となる処理を定義に含めることもできます。従来、スペックをどうするかの手打ち合わせに時間を要し、完了まで数日かかることもあった仮想マシンの追加は、JP1 による自動化で、作業効率がぐんとアップします。

LU : Logical Unit

使いやすく高品質な製品作り
VMware と日立の
強い連携

仮想化技術は、いま活用がどんどん拡大しています。VMware と日立は、ユーザーの IT に対する期待を強く感じています。マルチクラウドの仮想環境においてユーザーの管理・運用のご負担を軽減いただくため、多数の製品を連携させ利便性を高めています。ユーザーのご意見を製品にフィードバックし改善することも積極的に進めています。現場を知り、使いやすく UX (ユーザーの体験価値) の高い製品をこれからも提供してまいります。

UX : User Experience

統合管理製品を用いたデータセンターの統合監視

JP1 (統合コンソール)

オペレーター
(データセンター全体の統合監視)

■データセンター全体を統合監視する「オペレーター」

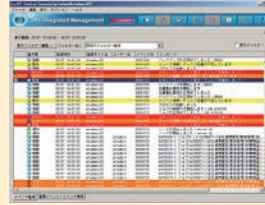
オペレーターは主に JP1 の統合コンソールで「業務の視点」からシステムにおかしな点がないかを監視します。障害を発見したときは、ドリルダウンして原因を特定し、インフラ管理者など適切な部署に連絡して対応を要請します。

「業務の視点」がなぜ必要なの？

いつもと比べて動作がおかしいと最初に気づくのは、多くの場合業務システムを使っているユーザーです。問い合わせは、「受注管理システムが遅い」というように業務のトラブルとして報告されます。そのため、業務の視点から本当の原因箇所へとドリルダウンして見ていくのが、結果として障害要因の特定が早くなり、効率的なのです。



実物イメージの図を作れる。業務の単位で障害の有無がわかる。



コンソールにはVMware製品のほか、インフラのログすべてが集まってきて時系列で見られる。アラートを操作すれば、VMware 製品の画面や Hitachi Command Suite 画面を呼び出せる。



たどっていけば、実はストレージ装置の故障だったりネットワーク障害だったり、ということがわかる。影響範囲も把握しやすい。

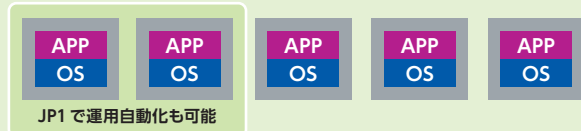
JP1 (統合コンソール)

業務システム管理者
(業務の監視、IaaSの管理)

■ユーザーの円滑な業務遂行を支援する

「業務システム管理者」

業務システム管理者は、業務サーバの OS の挙動やプロセスが落ちていないかなどを監視します。仮想マシンを追加するなど、仮想環境の運用に関する業務の多くは、JP1 で自動化して、効率化を図ることができます。

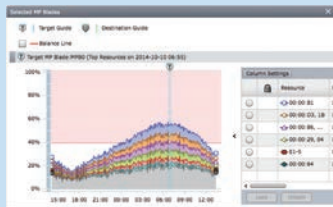


〈JP1で自動化できることの例〉
・仮想サーバの追加 / 削除
・仮想サーバの起動 / 停止 / 再起動
・ストレージの設定変更

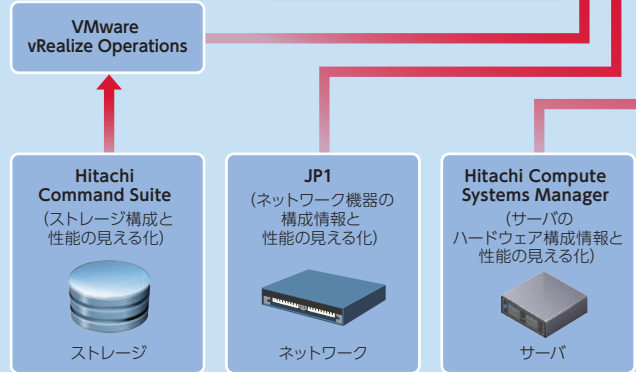
VMware vSphere® 仮想化基盤

インフラ管理者
(基盤の監視)

■基盤の障害を未然防止する「インフラ管理者」



インフラ管理者は、性能をチェックしたり、日々のメンテナンスを行います。Hitachi Command Suite を使うと、何番のファンが故障、ストレージの特定のディスクの負荷が高くなったなどの事象をアラートで受け取れます。発見後は、Hitachi Command Suite を使って速やかに、負荷バランスのチューニングを実施する、といった効率的な運用が可能です。



HITACHI, JP1 は、株式会社 日立製作所の商標または登録商標です。VMware は、米国およびその他の地域における VMware, Inc. の登録商標または商標です。その他記載の会社名、製品名は、それぞれの会社の商標もしくは登録商標です。

●記載の仕様は、製品の改良などのため予告なく変更することがあります。●本製品を輸出される場合には、外国為替および外国貿易法の規制ならびに米国の輸出管理規則など外国の輸出関連法規をご確認のうえ、必要な手続きをお取りください。なお、ご不明な場合は、弊社担当営業にお問い合わせください。

商品に関する詳細・お問い合わせは下記へ

■製品情報サイト

<http://www.hitachi.co.jp/soft/vmware/>

■インターネットでのお問い合わせ

<http://www.hitachi.co.jp/soft/ask/>

■電話でのお問い合わせは HMCC (日立オープンミドルウェア問い合わせセンター)

☎ 0120-55-0504

利用時間 9:00 ~ 12:00, 13:00 ~ 17:00 (土・日・祝日・弊社休日を除く)

携帯電話、PHS、一部の IP 電話などフリーダイヤルがご利用いただけない場合は、ダイヤルイン：044-850-9293 (通話料金はお客さまのご負担となります)